

ここで、今までの取り組みを紹介!!



有価物回収

恒例になっている行事に初の試みとして古着の回収も行う。地域住民の協力で多くの有価物・古着が集まり、地域によっては回収後におにぎりや生徒に振る舞う。



地区別協働防災訓練

実践防災教育指定校の研究内容を地域へ普及。地域の中で中学生が果たす役割を実現するため、消防団の訓練に参加したり、非常食づくりや心臓マッサージなど、実践的な訓練を行う。これは、もし緊急事態が起こった場合、中学生が戦力となるであろうと見越しての訓練。



地区生徒会

各地区から選出された生徒が中心となり、地区の行事を動かしていく。有価物回収、地区別協働防災訓練は事前に各地区の現状、訓練内容を協議した。



絵本の読み聞かせ

校内ギャラリー

地域の人々の作品を展示

中学生ながら絵本の音読に真剣に耳を傾けた。



学習ボランティアの授業

和楽器、日本の武道剣道、造形芸術書道、協調性を養う野球などのアロによる指導。講師はもちろん地域住民や卒業生。

生徒諸君 立ち上がれ!

押原中学校のコミュニティ・スクールという取り組み

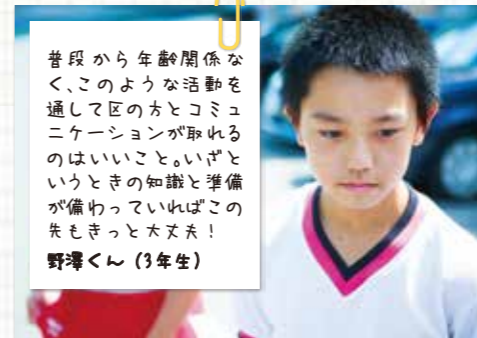
町に活力を 学校に特色を 生徒に気づきを 昭和町が作る新しい地域の在り方



地下水を汲み上げる訓練は大変でしたが、とてもためになりました。
丹澤くん (3年生)



昭和町は自然や公園、施設が多くあるのでとても住みやすいところだから、この町を大切にしていきたい。
黒沢くん (3年生)



普段から年齢関係なく、このような活動を通して区の方とコミュニケーションが取れるのはいいこと。いざというときの知識と準備が備わってればこの先もきっと大丈夫!
野澤くん (3年生)



自分のためになることが、結局は地域のためになると思います。私達が中心となって実際の災害時には一丸となって取り組んでいきたいです!
塚さん (3年生)

校内での活動が主になり外に出る機会が少ない。だから、中学生ならではの活動、実践的な活動を行うことを念頭におき、生徒たちは自分達が住む町へ飛び込んだ。

地域を、わたしたちが、地域の大きな力になる!

個々の力は小さいけれど、個を合わせた力は学校を、地域を変え、そして守るパワーを持っていることに気づいた。

このように、地域に密着根ざした取り組みから生まれたもの、それは、地域の人は、今までは当たり前、に今まで通り無難にこなしていた行事を改めて見つめ直し、積極的に意見を出し、受け継がれている行事をさらに大切にしようになった。一方、中学生たちは自分が入っている場所、住んでいる人々を改めて知り、「地域とのつながり」の温かさに触れ、地域への関心度が高まり積極的に地域行事に参加するようになり、その意思を紡いでいくことと実感しているように見える。

学校と地域が触れ合うことにより、交流が増え、親しみをもち、そして生まれた絆を、今後はさらに多くの学校行事を地域と絡んで盛大なものとし、やがて地域を育てる立場に立った生徒たちが、進学や就職でこの地域をたとえ離れたとしても、いつかは、あの町へ帰ろう、「必ず戻ってこよう」と思える町づくり、学校づくり、尽力したいと押原中学校の鷹野校長先生は力強く語ってくれた。

「コミュニティ・スクールとは」

学校や子どもたちが抱える課題や、家庭・地域社会が抱える課題を地域ぐるみで解決し、子供たちの健全な成長と質の高い学校教育の実現を図るため、地域の力を学校運営に生かす「地域とともにある学校」を目指すこと。その実現のための取り組みの一つとして、「コミュニティ・スクール」がある。

学校と保護者や地域住民が公立学校の運営や改革など共に知恵を出し合い、意見を反映させることで、一緒に協働しながら学校づくりを進める。

また、教育行政では手が回らないところを地域住民に積極的に関わってもらい、運営の一部を任せられる形の学校としての役割も担う。

文部科学省が2000年に立ち上げ、2002年度研究指定校とされた全国7地域9校で実践研究が始められ、2016年4月現在、全国に2806校ある。

保護者や地域住民などから構成される「学校運営協議会」が設けられ、学校運営の基本方針を承認したり、教育活動などについて意見を述べる場を設けるなどして普及しているが、昨今は、学校運営協議会を置くケースより緩やかに協力し学校を支えていく「学校応援団」的な組織に形を変えていく学校もある。

山梨県初のコミュニティ・スクールは、双葉西小学校で、平成22年に

東組 井上さん

大人だけで出来ることには限界があります。中学生が参加したことは、不可能を可能に変え、普段は言葉が交わらない子ども達と話ができたり、こちらにも刺激になりました。

東2組 黒倉さん

昔ながらの家が多かった地域に、新しい家族が増えた気分です。実際に災害が起きた時には、中学生の力が大きな手助けになると実感しました。

東3組 飯島さん

高齢化が進む中、中学生が率先して荷物を運んでくれることは助かります。もし災害が起きた時は、お年寄りや小さな子ども、女性しか家に入れないので、若い方の力をとても期待しています!

西組 金丸さん

大人と子どもが、学校と地域が、それぞれ助け合いながら触れ合うことは、今の時代とても良いこと、画期的なことですね!

東1組 松下さん

子どもと触れ合う機会が多く、そのような基盤を作ってきた地域ですが、コミュニティ・スクールの活動によって、さらに盛んになったように思っています。今後、いざ災害に遭った時は、自助共助できる主ができてと実感しています。

文部科学省より指定を受け、2年間の準備を経て平成24年「コミュニティ・スクール」となった。

地域を支えられ、地域を支える学校づくり

2015年、昭和町教育委員会は昭和町すべての公立小中学校をコミュニティ・スクールとして指定。その中には県内初となる中学校のコミュニティ・スクールとして「昭和町立押原中学校」も含まれていた。

この命を受け、通称「押原中」は学校運営のさらなる向上、子どもたちの豊かな成長を支える「地域とともにある学校づくり」を始め、学校や保護者はもちろん、地域の人々を巻き込んだ学校づくり。「コミュニティ・スクール」運営の背景には、2011年3月の東日本大震災で、地域と学校の「絆」が改めて再認識されたという説もある。学校運営に介入できない地域住民が学校づくりを、少子高齢化に伴う地域行事参加の衰退・希薄そして、その地域行事に一番先頭に立つであろう中学生が地域づくりを、お互い影響され合う相互作用、それこそがコミュニティ・スクールの真価であること。

やるからにはオリジナリティある学校づくりを目指そうと押原中は立ち上がった。まず、着目したのは「コミュニティ・スクール」を運営する県内唯一の中学校ということ。小学校の「コミュニティ・スクール」は



昭和町消防団の管轄



地域の全員で準備



小さな子どもも積極的に参加



片付けも全員で協力



大人も子どもも真剣



非常食の準備風景